

Kentwood, Kentlake 高校滞在記（生徒編）

Fantastic Days

3 年 M.K.

アメリカで過ごしたこの約 10 日間は、本当に思い出に残る素晴らしいものでした。今年だけ平日が少なかったことで Kentwood 高校のみに通学しました。この冊子には書ききれないほどの、楽しい経験ができました。昨年 7 月には一週間という大変短い期間でしたが、ホストファミリーとして良い経験ができたこともあり、12 月に行われた抽選で見事にくじを引き当ててからは、アメリカに行ける喜びはもちろん、昨年北野高校に来た人たちに会えることも楽しみにしていました。

出発前の 3 月は非常に忙しかったのを覚えています。お土産、荷物の準備…。お土産は何がいいかというのをメールで聞き、ものによっては京都にまで買いに行ったりしました。ただ買う日が出発前の 2 日前になってしまい、かなり焦ってしまったことは反省点です。

ドタバタの準備を終え、3 月 21 日に日本を出発しました。予定では 10 時間のフライトが、シアトルに 1 時間の早着。到着後に自分の将来の夢であるパイロットの方に、写真を撮ってくれませんか、とお願いするとなんとコックピットに入れさせてもらい一緒に写真を撮ってくださいました。シアトルに到着しただけでテンションが上がっていたのに、コックピットにまで入ることができ、自分の夢がさらに膨らんだような気がしました。空港では昨年日本に来た Matt と再会しました。Kentwood 高校に到着すると、「M・・・!」の声。見てみると、昨年同じく日本に来た Anna と再会しました。

ホストをしてくれたのは同い年の RJ。音楽が好きでとても優しい人でした。登校 2 日目に教頭先生が学校の案内をしてくれました。そこでは驚くほどの日本とアメリカの学校制度の違いを体験しました。コンピュータのプログラミング、車の修理、オーケストラや育児など、実に多様。学校に行く日には自由にそれらの授業に参加することができました。日本人たった一人で参加しても、先生方、生徒みんなが優しく接してくれ、中には日本語で自己紹介してくれる先生も。とてもたくさんの授業がある中で、外国語の授業が最も多かったように思います。第二言語としてスペイン語の次に日本語が多いそうで、授業はとても楽しく、みんなそれぞれの話せるようになりたいという気持ちが伝わってきました。普段の会話や授業中の会話も含めて、普通に会話できるほど話せていて、とても驚きました。また、日本語クラスでは日本文化についてのプレゼンもしました。「正月」について紹介をし、実物の凧や羽子板などを持っていくと、みんな興味津々。このプレゼンを通して、日本とアメリカの文化の違いを自分自身で大きく実感することができました。

23 日には Kent 地区での大きなお祭り、Cherry Blossom Festival(CBF) が開催されました。木曜日に CBF の準備をみんなでしたことで向こうのホストはもちろん、他の人たちとも仲良くなれました。北野・阿武野両校で、AKB48 のダンスの披露。3 月にお互いの学校まで行き、ダンスの練習をしました。

Kentwood 高校には学校とは思えないほどの大きなホールがあり、CBF ではそこで歌やダンス、和太鼓など様々な出し物が行われました。その中で最初のプログラムが自分たちのダンス。多くの人を前にして、果たして受け入れてくれるだろうかと思っていましたが、そんな心配も無用。みんながノリノリでとても盛り上がってくれました。また、CBF の会場では、昨年 7 月に自分がホストをした Kyle、また同じく日本に来た Melinda と会えました。彼らはすでに卒業していましたが、卒業生も含め一般の方も参加する非常に大きなお祭りでした。

休日は各ホストファミリーとの時間に充てられていましたが、ほとんどの時間を留学生・ホストがみ

んなで集まり、一緒に行動。24日はホストの一人である Princess のお誕生日祝いも含め、全員でシアトル・ダウンタウンを訪れました。日本でも有名なスターバックス一号店(1971年開業)、100年以上もの歴史を持ちシアトルの台所とも呼ばれるパイクプレイスマーケット、壁のいたるところにガムが貼り付けられたガムウォールなど、いずれも自分にとってとても刺激的でした。翌日の日曜日にはダウンタウンの向こう岸にあるビーチに。ダウンタウンの高層ビル群が大変きれいに見渡せました。3月ということもあり少し寒かったですが、楽しく過ごせました。このころから冗談を言えるほど仲良くなったように思います。

月曜日からは再び学校に通い、前述のとおり多くの授業に参加しました。覚えている方も多くいらっしゃると思いますが、昨年日本に来ていた Louck 先生の陶芸の授業では陶器を作らせてもらいました。また、クッキングの授業では生徒たちに混じり、オムレツを作りました。このような多様な授業を自分で選択して学べるのが、日本と違っていい点だと感じました。この日は天気がよく RJ と家の周辺を散歩し、街並みを眺めながらのんびりとした時間を過ごしました。日本の住宅街とは全く異なり、すべてが大きい一軒家で庭があり、このようなところに住みたいと思いました。また、桜の木が多くあることも驚きでした。それも一つの種類だけではなく、いろいろな桜がどれも綺麗に咲いていたのが印象的です。

次の日には放課後に二つのイベントが行われました。記念の桜の植樹と、滞在した Covington 市の市役所訪問。Kentwood 高校に近い Friendship Park で桜の植樹を手伝わせていただきました。また、その夜には市役所を訪問し、国際交流の証明書を市長から一人一人に渡していただきました。その後、私が代表として短いスピーチをしました。私にとって大変貴重な機会で、緊張しましたが、市長をはじめ議員の皆さんもとても温かく聞いていただき、ささやかながら達成感を味わうことができました。この二つのイベントの間には、全員で Wing Dome というお店に行きました。世界一辛いという、見た目にも増して匂いも強烈なチキンで、とても完食することはできませんでした…。

翌日の 28 日の放課後は RJ とお父さんと三人で再びダウンタウンに。イチローが所属するマリナーズのホームスタジアムである Safeco Field や、1962 年の万博時に建設された高さ 184m の Space Needle など観光名所を三人で回りました。Space Needle の展望台では風が強かったものの、眺めは壮観でした。

翌 29 日は一日 Kentlake 高校を訪問し、授業の体験。日本語クラスの授業は Kentwood 高校の雰囲気とは少し違う印象を受けましたが、彼らも同じく日本語がとても堪能でした。昼休みには、生徒の名前を毛筆を使い、漢字を使って書くというイベント。しかし筆を握るのも何年振りで、書道が苦手な自分は、非常に難しかったです。それでも何回も名前を書き、喜んでくれた人もいてよかったと思います。今年は日程の関係で Kentlake 高校に通うのはこの一日だけでしたが、優しい先生方・生徒たちでした。その日の夕食は Princess の家でのバーベキュー。彼女の家だけではなく、どの家にも大きな調理器具があり、日本との違いを感じました。

30日の金曜日はいよいよ登校最終日。朝食は校長先生と一緒に近くのレストランで。とても気さくで話しやすい方でした。最後の授業を終え、New Zen という日本語クラスに通う生徒のご両親が経営されている日本食レストランで昼食を頂きました。およそ一週間ぶりの日本食で、その素晴らしさを改めて実感しました。ここには日本語クラスを受講する多くの人が集まり、大半の人たちとはここでお別れになりました。その後はたくさんのトランポリンがある Sky High に行き、久しぶりに運動。そこにいる男の子たちは自分ではとてもできないような離れ技をし、ただ単にすごいと思うばかりでした。

休日最後の日は朝から **RJ** とお父さんと三人でシアトル郊外のエバレットにあるボーイング社(世界最大の航空機メーカー)に飛行機を見に行きました。そこは世界一広い工場で航空機の製造を行っており、想像していた以上に広く、貴重な体験ができました。お昼はみんなと合流し、韓国料理屋で食べ放題。韓国というと、向こうのみんなは学校で習ったわけでもないのに、韓国語を話せる人が多いことにかなり驚きました。趣味で勉強したそうで、**RJ**、**Princess** とともに話せていて、挨拶などを教えてもらいました。その後はカラオケに行き、最後はみんなで「**We Are the World**」の熱唱。夕食はホストの一人である **Tyler** 家に連れていっていただいた食べ放題。みんなと過ごすのが残り少なくなるにつれて、自分たちよりもホストの子たちの方が寂しく感じているようでした。その夜は **Tyler** 家でホラー映画を見て、帰宅してからは **Skype** でビデオ通話をしながら朝まで寝ずに過ごしました。

帰国の日。家でお父さんと別れ、お母さんが空港まで送ってくれました。日本に帰るという実感は全然ありませんでした。みんなとお別れをし、帰国の途に。ここにずっといたいと思っていましたが、不思議と悲しくはありませんでした。日本に到着してからまだ帰ってきた実感が全くわきませんでした。普段の日本の生活に戻ってからは、ずっとアメリカに帰りたいたいと思いながらの毎日を過ごしています。

長々と思い出話を書いてしまいましたが、まだまだ書き足りないほどの多くの思い出を作ることができました。さらに幸運なことに、ホストファミリーとしての受け入れ、そして交換留学生としての派遣の両方で、20年以上も続く北野高校と **Kentwood, Kentlake** 両校との国際交流プログラムを存分に経験することができました。このプログラムは高校を卒業してからでは決してできないであろう、多くのことを学ぶことができます。またこの7月にはハワイ・プナハウススクールと、12月には先日本校に来校した台北市立第一女子高級中学とそれぞれ姉妹校となり、さらに国際交流に関われる機会が増えていきます。この文章を読んでくださっている方で、もし少しでも興味があればぜひ応募してください。必ずかけがえのない素晴らしい思い出を作ることができるでしょう。最後にこの国際交流プログラムに携わってくださった先生方、共にアメリカに行った友達、家族のみなさん、今回の派遣を支えていただきありがとうございました。

一期一会の2週間

3年 Y.S.

派遣団を決める抽選会で、僕は最後の当たりくじを引きました。このケント地区派遣は僕の人生で最初の海外進出ということもあり、その抽選会の日から出発の日まで、僕の心は常に高鳴っていました。

飛行機に9時間程度揺られた後に辿り着いた未知の世界。そこは驚きと新鮮さでいっぱいの場所でした。1番最初の驚きは、どう考えても日本人だろうと思われる5歳くらいの少年が親とともに流暢に英語を話していたのを目撃した瞬間でした。その時初めて、僕は日本から出たのだと実感しました。

そこからは本当に驚きの連続でした。**Kentwood** 高校の教頭先生と思われた人の車に乗り込むと、車が道路の右側を走り出すのです。信号もほとんど無くて、洋画を観ているような感覚でした。**Kentwood** 高校に着くと、日本語教室に連れて行かれました。6時限目が終わる2時10分になり、しばらくしてから、僕のホストの **Tyler** と出逢いました。**Tyler** はとても面白くて優しく、常に僕の事を第一に考えてくれました。そして何より友情にアツく、仲間や先生からの信頼もかなりあり、男の模範みたいな人でした。出逢った瞬間から抱き合いました。とても年下には見えないです。そしてその後は、僕の気まぐれな発言によりハンバーガー店に行く事になりました。ハンバーガーとポテトとジュースのセットを頼んでくれたのですが、かなりの量で、食べきるのに苦労しました。

その翌日からは **Kentwood** 高校での学校生活が始まりました。6時に起こされ学校へ向かいます。家と学校との距離が近かったので、歩いて登校しました。カフェテリアで朝食をとります。シリアルやハンバーガー、ミルクなどアメリカンなものばかりでした。1時間目は7時35分に始まります。その日はほとんど日本語教室にいて日本語でみんなと話したりしましたが、次の日からは行きたい授業を自由に廻りました。心理学、陶芸、シアターなど、日本にはまだ導入されていないような授業もたくさんあったし、体育・音楽・外国語・家庭科・技術などはたくさんの種類に分かれていました。時間割は毎日全く同じで、授業科目数が多く選択の幅がとても広いので、生徒たちは皆とても意欲的に授業を受けていました。日本の教育制度も大幅に見直すべきです。また生徒数が4000人と非常に多く、カフェテリアがいっぱいになるので、昼食をとる時間帯が3回ありどの時間帯に昼食を食べるか決められているというのも新鮮でした。

学校が終わった後や休日には基本的には出かけていました。ホストの5人の仲が良かったという事もあり、一緒にいる事が結構多かったので、より楽しくアメリカを体験することが出来たのかなと思います。ホストどうしは英語で喋って計画を立ててくれていたようですが、固有名詞などもいっぱい出てきて全然理解できないので、行き当たりばったりで何かをするという形になりとても楽しかったです。ボーリングやカラオケ、ショッピングモールやレストランなど、日本にもあるような場所へも行きましたが、全然雰囲気の違いがありました。特にカラオケは日本発祥という事もあって、日本の方が数倍良いです。日本の築50年くらいのアパート風な外見で木造建築、歌声は外に丸漏れです。日本ではお馴染みのタッチパネル式の選曲の機械は無く、照明はバブル経済を連想させました。おそらく部屋数は10未満で、少しふてぶてしい店主さんも特徴的でした。また、土地が広いからだと思いますが、ショッピングモールは日本の様に7階建て、みたいな感じではなく、2階建てくらいで、1つのフロアがとても広がったです。店舗数もかなりあったように思われます。そして駐車場が日本の比にならないくらいに大きかったのがインプレッシブでした。個人の行動領域が日本よりもはるかに広いからだと思いますが、あちらでは自

転車が全く走っていないくて、一度も自転車を目撃していないです。基本的には自動車での移動で、Tyler は免許を持っていないためにお父さんが忙しいにも関わらず時間を作って運転してくれた事が多かったです。

そして、日本では考えられない文化も多数ありました。まず最もすごかったのが何と言ってもシアトルにある Gum Wall です。遠くから見たらただのカラフルで綺麗な壁なのですが、近くで見たら噛んだ後のガムが無数に壁一面に貼り付けてあるのです。20 年ほど前からガムが増え続け、今では有名な観光スポットになっているらしいです。同じ色のガムを噛みまくって文字にしたりイラストにしたりしているのもたくさんありました。僕たち一行もガムの増殖に貢献しました。こんな不衛生な壁を残しておこう、という発想は日本の政治家にはまず無いと思います。そしてブレイクダンスもすごかったです。ある金曜日の授業が終わってから晩まで、学校が主催の日本をテーマとしたイベントがあったのですが、(まず日本において授業終わりに学校が主催のイベントがあるなど考えられないのですが)、その後にブレイクダンス大会的なものが私的に開かれたようです。「出たい人は舞台に上がって下さい」というアナウンスの後には 30 人以上くらいダンサー(もちろん大半は現役高校生ですが)が集まり、順番に思うように踊っていました。中には 5 歳未満くらいの少年もいたし、女の子もいました。現に Tyler の友人も大半が B 系でした。

他にもいろいろな新鮮な経験をたくさんさせてもらったのですが、書き出すとキリが無いくらいにたくさんありました。しかし、このホームステイを経て身を染みて感じた事は、何と言ってもアメリカの人の温かさでした。お世話になった Tyler 家では家族をはじめ親戚みんなが仲良く、家庭でも愛情表現を忘れずに毎日楽しそうに過ごしているように思えました。もちろん友達関係においても全く同じことが言えます。また Kentwood 高校で僕らが日本の制服を着て歩いていると、たくさんの人が「Konnichiwa!!」などと独特のアクセントで気軽に話しかけてくれます。どう考えても異端な僕たちを快く受け入れてくれる、理想以上の場所でした。別に日本が嫌いだというわけでは無いですが、それに比べると日本はダメですね。「仲間」以外には話しかけられません。道端でご老人が倒れていても、助けるどころかコの字型に避けて通るくらいの社会です。仕事だけを考えて生きている冷たい集団です。今まで僕は 2 回、派遣団が北野高校へやってくるのを経験しましたが、僕は声をかけることが出来ませんでした。そんな人は僕以外にも多分たくさんいるのだと思います。日本へ来るのを楽しみにしていたのに、ほとんど声をかけられないなんて寂しいはずですよ。おそらく堪えきれないほどの孤独感に見舞われていたのだと思います。そう考えると申し訳なさでいっぱいです。国民性の違いだと言われれば仕方ないですが、それでも日本はアメリカのそういった点を少しずつでも見習っていくべきです。あの 2 週間以来、僕はより一層そう考えるようになりました。

I love Princess!

3年 H.K.

アメリカで過ごした2週間はとにかく1日1日がとても充実していました。

帰国して約2ヶ月がたちましたが、私は今でも Princess たちと過ごした日々をしっかりとおぼえています。書きたい事がありすぎて書ききれません。でもとりあえず、私はこの企画に参加できてほんとうによかったと思います。

最初に友達と申し込みに行ったときは、思っていたよりも希望者が多かったので、もうあきらめていました。だからクジに当たったときはうれしいというよりびっくりしすぎて全く「アメリカに行けるんだ」という実感がありませんでした。でも阿武野高校の人たちと話あったり、ダンスの練習をしたり、プレゼンテーションの準備に追われるうちにどんどん楽しみになってきました。

過去の行った先輩方の写真を見せてもらったりして、もうすぐ私もそこに行けるんだと思うとはやく行きたくて仕方ありませんでした。

そしてアメリカ初日、10時間の長い旅のあと、ついに私はホストファミリーの Princess と対面しました。私達は教室でホストたちが迎えに来てくれるのを、どんな子なのかドキドキしながら待っていました。続々とホストたちがやってきて、私もはやく会いたいなあと思っていました。すると突然おっきな声でものすごい早さで英語を話しながら女の子がいきなりだきついてきました。私はほんとうにびっくりしたけど、その子が Princess でした。Princess はとにかく元気で明るくて早口な女の子でした。友達がとっても多くみんなに私を紹介して歩くので最初の1日、2日はつねにあちこちで自己紹介をしていた気がします。あまりのその友達の多さに全然名前がおぼえられませんでした。

家に行くとホワイトボードにびっしりと2週間の予定が書いてあって、毎日いろんな所に連れて行ってくれました。Princess は4人姉妹の末っ子で家族みんなナースでした。家族みんな愉快で優しく、Princess がバイトのときはお姉ちゃんたちとご飯を食べにいったりもしました。お姉ちゃんたちはいつもケラケラ笑っているのが印象的でした。いつもの Princess の話をいっぱいしてくれました。

カラオケ、巨大トランポリン施設、ビーチ、シアトル、アメリカー辛いチキンの店・・・など、いろんな所に行きました。

そんな充実した2週間の中でやっぱり1番楽しかったのは、ケントウッド高校での毎日でした。

ケントウッド高校の生徒はみんな明るくて、廊下を歩いているとすぐにみんなが話しかけてくれるので、いろんな人たちと交流できて楽しかったです。

ハーフの人がとても多くて、みんな個性を大切にされていて、授業が終わる数分前になるとみんな片付けだして、ドアの前に並ぶのには驚きました。

生徒は自分の好きな科目をとっているので、授業に積極的に参加していました。授業はディベート形式が多かったです。1人1台パソコンを持ち歩いていたり、授業中でも普通にごはんを食べていて、日本と違うところがたくさんあり毎日が新鮮でした。

Cherry Blossom Festival の日は生徒たちが一団となって準備をして、ダンスや歌、ファッションショー、太鼓を披露しました。おいなりさんやお餅、まき寿司も生徒がつくり売られていました。

その準備も Princess が仕切っていたので、私は一緒に大きな桜の木を紙でつくりました。

祭りは夜からだったので夕方になるとみんな着替えて、私はAKBを踊ったり、ダンスのゲームをしたり、

めっちゃ楽しかったです。

アメリカ最後の夜は「もう今夜はオールしよ！」ってなって他のホストの家に集まり夜中までホラーを見ました。アメリカでは何でも大音量だったのでよけいに怖かったです。

結局寝ちゃいましたが、最後は Princess とリビングで一緒に寝ました。

お父さんとお母さんは「いつでもまた来てね」と言ってくれて、Princess も「あなたは私の妹よ」と言ってくれて感動しました。

2週間はあっという間で短すぎでした。最初は Princess の言葉が全然聞き取れなかったけどだんだん慣れてきてうれしかったです。もっともっと長くいたかったので、またいつかアメリカに行ってみるのに会いに行きます。

英語が話せなくても何とかあったけど、次行くときはペラペラになってもっといろんな話がしたいです。

この2週間は私の人生でもっとも魅力的で充実した貴重な日々になりました。このホームステイで受け入れてくださった学校、ホストの方々、親切にしてくれた生徒たち、そして先生方への感謝の気持ちでいっぱいです。ありがとうございました！

AMERICAN DREAM!!!

3年 T.M.

自分がケントに派遣された2週間は毎日が充実していて、今でも夢物語のように感じる日々でした。去年から行きたいとは思っていたのですが、「30人を超える中からの抽選でまさか自分なんかが当たってしまうなんて」という気持ちで当たってしまい、嬉しいというよりも驚きのほうが大きかったです。まだこのときの自分は、このときの「たまたま」が「これほどまでに素晴らしい経験」に変わるとは全く思っていませんでした。

アメリカにホントに行くんだという実感を持たぬまま、気づけば初の国際線フライトも終わってアメリカに到着していました。そのまま空港から学校へ行き（すでに車内からのアメリカの景色にギャーギャー騒いじゃってました）、5人のホストとご対面。僕のホストは Colin という、とても優しくて日本大好きで背の高い17歳の青年（とても同い年には見えないほどに大人びていました）でした。しかも彼は昨年もホストをしており、とても慣れた感じで逆に自分が戸惑ってしまいました。その後はみんなでハンバーガーショップへ行きました。極力小さいものを頼んだつもりでしたが、日本では考えられぬ大きさでした。

その日は家族みんなで迎えてくださいました。Mom はとても背が高く優しく、Dad はふくよかで快活な人でした。弟の Liam 君は、驚いたことに12歳にして身長170cmを超えていたのです。自分の身長は日本でも低いほうだとは自覚していましたが、まさか12歳の少年に見下ろされるとは思ってもいませんでした。

アメリカの空気に息つく暇もなく翌日から KENTWOOD 高校に通うことになりました。驚いたのは車での登校、しかも Colin が運転するということでした！同い年の運転する車は少々怖くもありましたが、日本では考えられないことです。

高校は「さすがアメリカ！」と思ってしまうほどの自由さで、授業中の飲食も少々であれば許されていました。また、授業はオーケストラに演劇に陶芸と、普通の高校では考えられないものが多数ありました。これらのクラスにはみんなで行くことが多かったのです。そのためか、4人は元々（正直に言えば）知り合い程度のつきあいだったのですが、滞在中に本当に仲良くなりました。滞在中はみんな日本語で喋ってお互いに安心してたのを覚えています。たまに話に花が咲きすぎて、ホストたちに「英語で喋ってくれ」と言われる時もありました（笑）。ただ、日本語で喋っているにもかかわらず英語の発音になったり、ワケのわからない日本語を喋ったりするなど、日本語の退化を痛感することもしばしばありました。

一番大きかった行事は cherry blossom festival でした。このお祭りはケント地方にある4つの高校が集まる大きなイベントで、ステージパフォーマンスが一番のメインでした。僕らはそこで「AKB48/ヘビーローテーション」を踊りました。春休み中に練習した甲斐あってか、本番はそこそこ踊れたかなと思いました。それにしても仕方ないとはいえ、なんとも恥ずかしかったのは女装させられたことです。ダンスは楽しかったですが、女装だけは二度とやりたくないです。

祭りの中でも一番印象に残っているのは、パフォーマンスの最後を飾ったブレイクダンスでした。ブレイクダンスはアメリカではとても人気らしく、舞台に集まる人数の多さに驚きました。日本ではあまり見かけないだけに、とても迫力を感じるダンスでした。高校生でも踊れるんだなと感心しました。

休日には観光でスターバックスの1号店やガムウォール（壁一面がガムで埋め尽くされた道）、アメリカのボーリングに行ったり（あんまり日本と変わらない）、ゴーカートに乗ったりもしました。特にこのゴーカートはとても印象に残っています。想像していたものとはかけ離れていて、なんと本物のエンジンを搭載した、レースカーのミニチュア版のようなもので、速度もかなり出てとてもスリルのあるものでした。ゲームセンターのものとは（当たり前ながら）全然違っていました。もう一度やりたいと思っています。

また、最高気温が10℃程しかないような肌寒い春に、なんとビーチに連れて行かれました。浜風がびっくりするほど寒かったです（コートが欲しくなるほど）。これほど寒いにもかかわらず驚いたことにそのまま海に入られました（お決まり）。どれだけ寒かったことか。3月の終わりにこんな寒い体験は生涯二度とないでしょう。

逆に、（毎年の恒例で）燃えるように辛いチキンを食べられたこともありましたが（契約書が必要なほどの代物）。食った直後から唇は痛いし喉には何も通らないしと散々な目に遭い、自分の結論としては「あれは食べ物ではない」。あれを完食できたのは10人中ColinとEmilyとSだけでした。この3人の舌は異常だと思います。

最終日が近づくにつれて、せっかく友達もできたのにもっとみんなと英語を喋りたいという気持ちが強くなりました。あと1か月ほど滞在できればと思うほどでした。でもそんなことが起こることはなく、いつの間にかケントウッド高校に行けるのは最後になっていました。この日は最後ということで、日本語クラスみんなで日本料理店に行きました。日本人の作る日本食だったので味は日本のものそのまま、アメリカの味にすっかり慣れてしまっていた自分にとっては衝撃の味でした！改めて日本食ってすごいんだなあと思っていました。その頃アメリカの人たちは皆お箸の使い方に苦戦し、なかなか食べられない状態でした。食事も終わり、渋々みんなとお別れした後、SKY HIGHに行きました。これは地面にたくさんのトランポリンを敷き詰めた屋内アトラクションで、初めはバランスが全くとれず、鬼ごっこも一苦勞でした。それが1時間もはしゃぎまわると逆に普通の地面を歩くのが難しくなるほど慣れていました。そのころには体力が限界だったのですが・・・。

その後は地元のスーパーマーケットに行きました。見た目がグロテスクなポテトチップスのような物質（とても食べそうになかったのも、もちろん試す気にはなれず。）や、紫のアスパラ・ブロッコリーなんてものも売っていました。また、キリンビールが売っているのを見て、「さすが日本のブランド！」と思いました。

出発前日はカラオケに行きました。カラオケといっても、いたるところに存在する日本の最新型カラオケとは違い、街からしばらく離れた場所にある旧型リモコン式のカラオケでした。内装も2世代ほど前のディスコみたく、「ここ大丈夫なんかい」なんて思っていたのですがAKBや嵐など日本の最近の曲も意外と多くてびっくりでした。

そして遂に出発の日。なんとColinがサプライズでケントウッド高校のTシャツ（アメリカの高校ごとにあるみたいですが）をくれました！デザインもかっこいいし、何よりも「プレゼントを用意してくれていたなんて！」という思いで感動していました。

最後はみんなですっと「帰りたくない、もっと居たい」と口々に言い続けながら泣く泣くのお別れになりました。ゲートを抜けるまでずっと手を振ってくれていて、本当に嬉しかったです。会えなくなるという気持ちはあったものの、また翌日にでも会えるような気分もしていて複雑な思いのまま、気づけば

日本に到着していました。家に帰った時に初めて「ああ日本に帰ってきた」という気持ちと「ああ本当に会えなくなっちゃった」という気持ちでした・・・。

はじめ当たった時は、自分なんかろくに英語もできないのに、もっと別の人が当たるべきだったんじゃないかと思っていました。しかし、当たっていなければ自分はこんなすばらしい体験ができなかったのです。今になって「あの時当たって本当に良かった」と思っています。そして、こんなにもすばらしいアメリカ留学の機会を与えてくださった北野高校に本当に感謝です。ありがとうございました。

Thank you a lot, Kentwood!!

3年 R.W.

生まれて初めてのホームステイに、私は前日になっても当日関空に着いても全く実感がわきませんでした!!今でもアメリカで過ごした2週間は夢の中みたいで、行ったことがいまだに信じられないくらいです。それでも、毎日の何気ない出来事が楽しくて、印象的すぎて1つ1つ鮮明におもいだせます。

初日、アメリカの空港に着き1時間くらい待ったのですが誰も来ず、時差ボケでグダ〜っとなっていました。すると教頭先生らしき人が迎えに来ました。今回は学校で会うことになっていたみたいです。学校の廊下を歩いていると、“R・・!!”とすごい勢いで話しかけられて、最初はびっくりでした。私のホストは、エミリーというブロンドカールと青い目がめちゃくちゃ似合う、日本が大好きな1コマの女の子でした。

出発前のメールで、“友達ほとんど男の子だよ”と言っていたんですが本当にその通りでした。対面してしばらくすると、他の北野生はそのあとみんなでご飯を食べに行っていたらしいのですが、私だけさっそくエミリーの男友達のブライス君の家に遊びにいきました(笑) これでもエミリーは性格もアメリカ人の中では日本人よりで、アメリカの女の子がよくするという衝動買いも全くせず、本人も自分は日本の方が向いていると言っていました。日本人の穏やかな気質や、クリスマスのあとお正月を祝うというような宗教の適当さ、細やかな気遣いが大好きと言っていました。あと印象的で文化の違いを感じたのが、どちらがいいか聞かれた時に、どっちでもいいよと答えると、その返事が1番困るとズバツと言われたことでした。でも私が日本人はよく言うよと言うと、そういうところも好き、ということでした。

ブライス君の家には、他にもK君、D君と数人いました。私は1日目ということもあって緊張していて、みんなが英語でもりあがっていても中に入れませんでした。すると、銃のゲームやる?と勧められたのでやってみました。下手だったので、やり方を教えてもらっている間に少し話せました。エミリーをはじめみんなとても優しくしてくれて安心しました。この辺からやっと、これからアメリカで過ごすんだという実感がわいてきました。

そしてそのあとやっとエミリーの家に着いて、お母さんとも対面できました。今まで2回ホストを経験してるだけあって、2人はわたしにゆっくり分かりやすい英語で話してくれてとても助かりました。1回目で聞き取れなかったら、更にわかりやすい英語や、たまに日本語で話してくれました。なにより感謝しているのは、家族みんな私の英語を辛抱強く熱心にきいてくれたことです。エミリーは、私が単語とか文法とか考えながらゆっくり話していても、ずっと待っていてくれるホントに優しい子でした。おかげで、最終日まで間違えることをそんなに気にせず、積極的に楽しく話すことができました♪ あと学校では、あまり良くない生徒がいて、絶対に話さないように注意してくれたり。いろんな面で、ホストとして責任を持ってくれていることが伝わってきました。

家は広くて、私の部屋は客用の部屋でテレビもついていました(@_@;) ベッドはなぜかめっちゃ高く、毎回よじのぼるかんじでした。ちなみにエミリーの部屋は、正直どこがいいのか分からない浮世絵がいっぱい飾られていました。

次の日からは Kentwood 高校に通いました。日本では先生達からアメリカらしい珍しい授業をすすめられていたにも関わらず、実は1日以外ほとんどエミリーとおんなじクラスを受けにいっていました。

もっと他の授業も見ればよかったと少し後悔していますが、この過ごし方もこれはこれですごくメリットがありました。それは毎朝同じ場所にあつまり、同じ授業を同じクラスメイトで受けることで、固定の友達ができいき、ゲストというよりはむしろ自分もひとりの生徒として通っているような感覚になれたことです!! 名前もその分よく覚えられました。また、たった1日では仲良くなれなかったはずのちょっと Shy な子たちとも、毎日少しずつ仲良くなれたのも嬉しかったです。Lunch も決まったメンバー6人で食べました。人種は様々で、その中には白人だけでなく、黒人の男の子も、中国人の女の子もいました。そのうちのダニエル君はマンガをかくのが好きで、最後の登校日には、みんなでご飯を食べているのを細かくかいた、名前付きの上手な絵をくれました。めっちゃ嬉しかったです。でも食べ物は予想以上に口に合わなくて、ちょっと食べただけでギブアップでした。

クラスは1時間目は英語で、みんなである本を読んでそれについての質問の答えを話し合っていました。これを毎日やっていました。ある日小テストだったので、ダメもとで受けてみたらえらいことになりました(笑) 5時間目は日本語!! ここではまず北野生に会えるので、1日の中で一番好きだったかも。アメリカの子といるときめちゃくちゃ楽しいはずなのに、なぜか日本人を見ると、なんともいえない安心感がありすいよせられる感じでした。こんなに日本人に会えてうれしく思えたのは初めてです。あとびっくりしたのは人種の多さです。白人がやっぱり一番多いだろうと思っていたら、アジア系も負けてなくて、何回“あれ、日本人っぽいな・・・”と思ったかわかりません。黒人の人も、イスラーム教徒っぽい人もたくさんいました。日本語クラスにはエミリーの友達で本当の日本人がいました。どっからどうみても日本人なのに、英語しか話せないのは不思議でした。今にも日本語ぺらぺら話だしそうだったのに・・・だから私達も制服じゃなかったら絶対気づかれなかったと思います。実際、スーパーに行った時、店員さんに一般客と間違えられて急に話しかけられたこともありました。

日本語クラスもいろんな人種の集まりでした。日本語クラスのみんなは穏やかで、ユニークでおもしろかったです。Nick 君という男の子はその名前から、数名から”にくじゃが～”と呼ばれていて、また嵐のファンの子に誰が好きかきくと、迷わず“Nino!!”と言っていました。あとは松潤のドラマの中の役名まで覚えている男の子までいました。日本語でふざけあっているときもあり、みんなの日本が好きっていう気持ちが伝わってきました!!まさかアメリカにこんなに日本が好きな人がいるとは思ってもみなかったもので、嬉しかったです。また、私自身日本人に生まれて良かったと思いました。日本人じゃなかったら、英語を話すのをこんなに楽しめなかったからです。英語を当たり前で話すアメリカ人を見ていて、もったいないなあと思いました。逆に向こうからよく質問されたのは、アメリカ人のイメージでした。カッコいいよと答えると、太っているイメージはない?とよく聞かれました。やっぱりちょっと気にしているみたい。

3日目の金曜日に行われた Cherry blossom Festival はほんとに楽しかったです。この辺りで、みんなの見た目によらない子供っぽさがみえてきました。エミリーが教えてくれた、ハイタッチすると見せかけて髪をさわるだけという、アメリカ人特有のネタをいろんなひとに実行しました。このジョークはアメリカ人なら知っているらしく、私がすると、“なんでこれ知っているの?”とよく聞かれました。だまされて本気でくやしがっている男の子を見て、エミリーは大爆笑していました。見た目はすごい大人っぽいけど、中身は16歳だなあと感じました。でも一番子供っぽかったのは私かもしれません。

Festival 当日の開会式では、制服のジャケットを着ていない、と教頭先生におこられてみんなで取りに帰っているうちに、K 先生のスピーチの時間がなくなってしまったというハプニングがありました。

舞台では、阿武野高校のみんなと日本で練習したヘビーローテーションを踊りました。緊張はしなかったけど、若干恥ずかしかったです。でもみんなののりがよくて、M ちゃんの手品もうけていました。またこの日に、市岡高校の2人とたまたまトイレで会って仲良くなりました。次の日にシアトル内のスターボックス1号店で再会したときはびっくりしました。この行事でアメリカの子はもちろん、ホントに多くの人と接することが出来たと思います。エミリーが忙しくて私がひとりでさみしそうにしていたら、ずっと一緒にいてあげると手をつないで道案内してくれる、優しい子にも出会えました。

平日の放課後や土日はシアトル観光や、いろんなスポットに連れて行ってもらいました。シアトルのガムウォールは印象的で、私達もかんでいたガムをくっつけました。10年ぶりくらいに行ったボーリングでは、まさかの20点をとりました。これが悪い点数だっていうのも後で知りました。ほとんどガーターで、ガーターのたびにエミリーに“Good Job!!”とからかわれました。あとは高級そうなペディキュア専門店で連れて行ってもらったりしました。ショッピングモールはすごいでかくて2階は回りきれませんでした。アメリカの店員さんはフレンドリーで、エミリーはしょっちゅう私のことを紹介してくれました。そしたら、いつまでいるのか尋ねてくれたり、楽しんでってねと言ってくれたり、私も昔日本にいったことがあると教えてくれたりしました。木曜日は Kentlake 高校に1日だけ行きましたが、ウッドに戻りたくてしょうがない1日でした。でも、みんなの名前を毛筆で書くのは楽しかったです。ウッドの友達の分も書いてかえったら、予想以上に大喜びで、その漢字の意味をみんなに自慢してくれていました。この企画をウッドでもやりたかったです。

家では、ご飯を食べながら、お母さんとも楽しい時間が過ごせました。最初は、2人が会話して笑っているとき、聞き取れないのでどこに笑っているのか分からない状態でした。でも数日たつと、たまに聞こえる単語から大体のことが分かって、しばしば私から話に入れたり、一緒に大爆笑することもありました。最後まで分からなかったのは、言っていることが本気なのかジョークなのかでした。特にエミリーのお母さんは、真顔でジョークを言うのでいつも信じてしまいました。お母さんは本当に愉快な人で、私が言った英語がアメリカ人にはちょっと変だったときは、“その表現おもしろい。気に入ったわ!”とってくれたり、私が化学でいつも欠点をとるという話をすると大爆笑してくれたりしました。

ご飯のあとはよくみんなでクイズ番組を見ました。エミリーはかしこくてすぐ答えていました。私は問題文すら読みおわらず、途中であきらめてよく犬の Martin と遊びました。Martin は34キロのおっきい犬でやんちゃでした。私が朝準備して階段をおりると、必ず見つかって追いかけてられました。それで私の声を聞いたお母さんが助けに来るとというのが毎日の出来事になっていました。他にはコメディーを見ましたが、内容が、他のテレビ番組に出ている人の行動をばかにして笑いをとるというものでした(° o °)日本ではありえない!! 出発の前日には、“taikondo”でエミリーと同じ黒帯を持っているという3つ下の女の子が遊びにきてくれて、映画館に“ハンガーゲーム”という映画を見に行きました。最初は?だったけど、エミリーが場面ごとにちょこちょこ説明してくれたら、予想以上にいい話でずっと号泣していました。でも戦闘シーンは怖すぎて震えが止まらなかったです。周りは平然としていたけれど。その日は3人でもっぱら映画の内容を話し合いながら、私の部屋で寝ました。

次の日は出発でした。朝から嬉しいことに、今までなついてくれなかった猫の Tiger が、ベッドまで飛び乗ってきてくれました。エミリーが“Tiger からのプレゼントだよ”と言ってきて、ホントに嬉しかったです。

この2週間、エミリー一家をはじめ、私はたくさんの人の優しさに甘えてばかりいたように思います。

私がこんなにも楽しめたのはそのおかげです。迷惑もたくさん掛けました。1番申し訳なかったのが、ある日お母さんに、私の部屋を見るなり”Oh my god!!”と言わせてしまったことです。かなりきたなかったようです。エミリーは今年の夏北野に来てくれるし、私の方にも個人的に数日泊まりにきてくれるので、その点別れ際でも全く悲しくはありませんでした。でも **Kentwood** 高校にもう生徒として通うことは出来ないんだと思うと、今でも泣きそうになるくらいさみしいし、受け入れたくないです。もう1週間通いたかった！ 長いフライトを経て日本に着いたとき、空港の受付の人が日本語をしゃべってくれたことにはホントに感動。日本人の子供がいるだけでみんなで騒ぎました。全身の力がぬけるくらい安心しました。やっぱり私は日本人で、住むなら絶対日本だ！とそのときは思いました。でもそんな気持ちはつかのまで、今はアメリカが恋しくてしょうがないです。来年、絶対また会いに行こうと思います。今度はただお世話になるのではなく、なんらかのかたちで恩返しをしたいと思っています。今回、学校の先生方はもちろん、このような一生忘れない体験をさせてくださった皆さんに感謝しています。

Kentwood, Kentlake 高校滞在記（教員編）

2012 年 3 月 21 日(水)～3 月 27 日(火) S.K.

初めての海外のうえ、英語が喋れるというわけでもなくただ単純に行ってみたいという好奇心だけで手を挙げた Kentwood 高校への付き添い。一週間という短い期間でしたが、とても貴重な体験ができました。何から何まで初体験の連続で、生徒に負けないくらい楽しませてもらいました。楽しすぎて、北野生の Kentwood での様子を伝えるという唯一の仕事を何回か忘れてしまう始末。飛行機も順調に飛び、一時間以上はやく空港に着いたため Kentwood 高校からのお迎えが来られておらず、不安な中待ちぼうけ。お迎えが来られたときは、ほっとしました。

到着日が平日ということもあり、まず副校長の車で高校まで連れて行っていただき、ホストをしてくれる生徒が授業を終えるのを長時間のフライトの疲れと睡魔と戦いながら Japanese class の教室で待っていたのですが、授業を終えたホスト先の生徒が教室へ入って来たときの生徒の楽しそうな顔は忘れることができません。入って来た瞬間今までの疲れやら眠気は一気に吹っ飛び、ハグに握手にもうまさにお祭り騒ぎ！！日本では考えられないような歓迎っぷりに圧倒されました。

一日目はしばらくお世話になる Kentwood 高校を案内してもらい、その後日本語クラスへの授業の手伝いをしました。副校長に連れられ学校を案内してもらったのですが、授業の種類之多さに驚きました。本格的な機材のそろった木工の授業、車の修理工場のような教室やニュース番組のセットをそのまま持ってきたような教室で行われる授業とここでは書ききれないぐらいさまざまな授業が行われていました(家で朝食を食べているようにしか見えない授業も!!)。北野の生徒はもうすでに「日本の学校もこんなやったら、いいのに」と魅了されっぱなしです。もちろん、理科や数学といった授業もあるのですが、日本のように教師が生徒のいる教室に行くのではなく、教員に教室が割り当てられていて、その教室がどこもその先生自身がレイアウトしており、同じところがどこもない。教員の色がそのままであり、どの教室も個性的でした。机の並べ方にしても、きちんと並んでいる教室もあれば、コの字型になっていたりと、教員のスタイルに合わせた形に並べていました。そして、まさに授業が行われている最中にアポイントなしに入っていくって案内してもらうのですが、どこのクラスも授業を中断し、歓迎してくれるのです。コーラスの class にいたっては「さあ、日本から新しい仲間がきました。どうせなら何か歌を歌って迎えましょう、何を歌う?」「この歌なら知ってるんじゃない」というアメリカっぽいやりとりの後、歓迎の歌まで歌ってくれました。一通り見終えたあとは、日本語クラスに参加させてもらいました。その授業では自己紹介した後、3,4 人の班を作ってそこに北野の生徒が一人ずつ入り、向こうの生徒が授業で習った日本語で質問をし、それに答えるというのですが 2 時間目、3 時間目と繰り返すうちに、せっかく来たのだから英語に触れたいという思いが強くなってきたのか、ホストについて別の授業を受けてきていいですかと積極的に教室を飛び出していきました。その後、授業を受け終わった生徒の「何言ってるか全然わからん」と言いながらもとても楽しそう表情が非常に印象的でした。

二日目は、チェリーブロッサム・フェスティバルの本番でした。チェリーブロッサム・フェスティバルは日本という文化祭的な行事のようですが、日本と違って朝から夕方にかけて行うのではなく一日の授業が終わったあとに行われるのですが、北野生はこの日はもう日本語クラスに入ることなく、ずっとホストと一緒に授業を回っていたようです。私自身、つたない英語でなんとかアポイントをとりいくつかの授業を見学させてもらいました。

一つ目は(Gene という英語が飛びかっていたので)おそらく生物の授業。この授業では、黒板には今日

話すテーマが書かれているだけで板書は行われず対話のみで、教員がそのテーマについてしゃべり、その中で疑問に思ったことを生徒が質問するという形で進んでいました。だけど、書いている内容はわかりませんでしたが生徒はノートにずっとメモしていました。授業後に話を聞くとこのような形での授業は始めたばかりで生徒次第でどのような流れになるかわからないので、難しいがとても楽しいとおっしゃっていました。

二つ目は私も日本で教えている物理の授業を二種類。電気の分野と波の分野の授業を見学させていただきました。喋っていることはわからないが、使われている記号が日本と同じなので内容は理解。なぜ物理量を日本語のままではなく記号で置き換えるのかというのを身をもって体験することができました。また、二つ見学させてもらったうちの片方に **advance** というフレーズがついていたのでどういう違いがあるのか聞いてみると、理系・文系というくくりではなく自分のレベルに合った物理の授業を受けれるそうです。

三つ目は **CAD** を使って家の設計をする建築の授業。この授業でも前で先生が一斉に指導するというのではなく、生徒が質問をしながら授業が進んでいました。同じ教室に二学年同時に授業が行われているそうです。あまり気にならないと話していましたが、日本では考えられないそのやり方に驚きました。

どの授業でも終わった後に、ゆっくりとした英語で説明をしてくださって本当にいい経験になりました。

そして、放課後は阿武野高校の生徒と合流しチェリーブロッサム・フェスティバル。四つの高校が合同でやる行事で規模の大きさにびっくりしました。そんな中でのダンスパフォーマンスの本番。阿武野・北野の生徒は **AKB** のダンスを踊ったのですが、堂々と踊りきり、ホストの子が盛り上げてくれたかいもあり大盛況。本当に感謝です。また、向こうの生徒のパフォーマンスもあるのですが、どれもレベルが高く非常に盛り上がっていました。なによりも司会進行をしている生徒が盛り上げ上手。メイン会場では、お好み焼きやバブルティーなどが売られ、こちらの方も大盛況。高校生だけでなく、その家族や友達、たくさんの人が来ており、日本・アジアへの関心の高さがうかがえ参加しながら少し嬉しくなりました。このお祭りは四つの高校が持ち回りで行い、今年は **Kentwood** 高校が会場だったので、生徒も夜遅くまで片づけを手伝い、終了後はとても満足げでした。

三日目・四日目はラウク先生に連れられ、シアトル観光・巨大ショッピングモールに動物園に連れて行ってもらいました。いろいろなところに連れて行ってもらって楽しかったのですが、なによりも私自身一般の家庭にホームステイをしたというのがとても心に残っています。あまり話すことができなかったのが悔しくて、もっと英語を勉強しとけばよかったと後悔しました。

いろいろなことを経験し一日ごとに成長する生徒を見ることができ、とても楽しかったです。一週間という短い期間でしたが、決して忘れることのない密度の高い一週間だったと思います。

KENTWOOD 高校滞在記（教員編）

2012 年 3 月 27 日（火）～4 月 2 日（月） A.S

今回で 2 回目のシアトル引率になるが、前回 2009（平成 21 年）年はケントレイク高校のみの訪問だったので、姉妹校のケントウッド高校は初めての訪問である。本年は日程の都合上、北野高校派遣団はケントウッド高校に阿武野高校派遣団はケントレイク高校にのみ、それぞれ滞在し、相手の姉妹校を 1 日訪問するという変則的なものであった。

さて、今回も後半（3 月 27 日～4 月 2 日）の引率のため、前半の引率の K 先生と空港で引き継ぎができればと思っていたが、1 時間しか空港での滞在時間が重なっていなかったため、残念ながら会うことは出来ず、Aida 副校長先生とケントウッド高校へと向かうこととなった。学校に着くと、すぐに日本語教室に案内してもらった。5 限目の途中で、K 君・W さんの二人はすでにハイテンションでこの 1 週間のことを熱心に話してくれ、すっかりなじんでいる様子にほっと一安心。

授業終了後、2 時 30 分頃から桜の木を植えに行く予定だと生徒たちから聞いていたので、おそらく姉妹校 20 周年の記念植樹だろうと思っていたところ、市長、市関係者、日本領事館担当者も出席するという公式行事だった。きっかけは 1912 年、当時東京市長であった尾崎行雄が首都ワシントンに桜の木を 3000 本贈ってから本年がちょうど 100 周年に当たり、全米で盛大に桜祭りが行われている。またコビントン市が緑化プログラムを実施してから 10 周年に当たることもあり、「吉野桜」を記念植樹するというものであった。市長は挨拶の中で、木は再生可能な資源であり、今後も街路樹を増やしていく計画を進めていくことや、住宅地の中に公園を作り、そこは住宅にせず、緑化を進めるシンボルにするなどの考えを述べ、環境を大切にすることが伝わってくるすばらしいスピーチだった。挨拶等のセレモニーが終わると、出席者全員交代でシャベルを持ち、植樹を行った。終了後はジュースやスナック菓子が用意されており、こういう点はいかにもアメリカらしいと思った。

もう一つの公式行事は、市役所訪問。18 時 30 分に集合予定だったが、1 人が 10 分過ぎても姿を見せない。議会が長引いているとのことで、待っている時間を利用して担当者に市庁舎内を案内してもらおう。7 時ころ全員が揃ったが、その一人が遅れた理由は予定では 7 時集合だったが、当日になって 6 時 30 分に変更になり、その情報がホスト・マザーに伝わっていなかったからだった。急に予定変更になるのも、アメリカらしいところ。さて、議会では国際交流記念日の制定が可決され、一人一人に証明書が手渡された。最後に、K が生徒を代表してスピーチを行ったが、市長から今までにないすばらしい (outstanding) スピーチだとお褒めの言葉をいただいた。

2 日目（3 月 28 日）

今日から、授業に参加。生徒たちは、準備してきた日本文化紹介のプレゼンの実践。4 限に M、K。5 限に S、W の順でプレゼン開始。3 人まで順調に進み、4 人目の W の途中で、まさかの Fire Drill（避難訓練）。全員グラウンドに避難開始。3 年前は、授業担当の先生が警備員に連絡し、早々に終了したように記憶していたが、今回は授業担当者がグラウンドの指定された場所に避難し、点呼完了後、担当教員に報告するようになっており、前回よりは組織的になっているように感じた。20 分以上待たされたが、どうやらトイレに入って（隠れて？）いた生徒がおり、その確認のため終了が遅れたそうで、国は変われど、どこにでもこういう生徒はいるものだと感じた。

6 限目は、2008 年に引率で日本に来られた Taylor 先生のスペイン語の授業と 2009 年に訪問した時のことを覚えていてくれ、是非授業を見に来てほしいと誘ってくれた Barbara 先生の Sign

Language（手話）の授業を見学させてもらった。どの教室にも、電子黒板とパソコンは備え付けられており、設備の違いを感じさせられた。また、どちらの授業も教員の説明は必要最低限にまとめられており、生徒個人に活動させる時間を多く取っている点が、日本とは違うということを再認識する機会となった。

3日目（3月29日）

今日は、ケントレイク高校1日訪問の日。いつものように7時ころに学校に到着し、スクールバスでケントレイク高校へ移動した。実は、このバスの出発時刻も聞かされておらず、ホストの生徒の誘導でバス乗り場へ案内してもらい、何とか乗車できたが、生徒はS、K、Wの3人のみで、M、Kは後から合流することとなった。ケントレイク高校に着くと、2011年に派遣団生徒の一人であったMatthewの案内で日本語教室へ向かった。

教室では、阿武野高校の引率のM先生と関西空港での出発時以来の再会を果たし、これまでの生徒や学校の様子を聞くことができた。日本語担当のKei先生とも初めてお会いした。彼女のご両親が日本人だが、ご自身はアメリカ生まれのアメリカ育ちで、大学で日本語を専攻し日本語教員になったとのこと。また、本年7月の日本派遣の引率教員に決まっていたので、日程等の相談ができて好都合であった。

さて、本日の予定はKei先生がアレンジしてくれており、1、2限は日本語教室・3限は体育・4限～ランチタイムは書道とダンスパフォーマンス・5限に昼食休憩・6限は各自希望の授業だった。

日本語の授業では、ケントウッド高校と同じように自己紹介や、日本語での会話の相手をしたりするなどであったが、すっかり慣れているように感じた。

3限目の体育は体育館でバスケットボール。阿武野高校生は、ジャージに着替えていたが、本校生は制服のため、男子3名のみ参加。最初に教員が、説明をし始めたときの生徒の様子は、隣の生徒としゃべったり、バスケットボールを指で回したり、ヘッドフォンを片方の耳にしたまま聞いていたり、日本の体育の授業で、そのような態度をとると、相当厳しい指導を受けることになる生徒の姿が多く見受けられた。M先生によると、この授業は「体育」ではなく「スポーツ」だとのこと。しかし、その後、小テストの用紙が配られると、生徒たちの態度が一変。一斉に体育館フロアに問題用紙を置き、無言で解答を記入し始めた。こういった小テストは成績評価にかなりの比重を占めているようで、生徒たちはそういう点には敏感に反応するとのこと。テスト終了後、準備運動を2分間するよう、教員が指示をすると体育館には大音量のBGMが鳴り響き、各自が思い思いにウォーミング・アップを開始。改めて、「スポーツ」の授業であることを実感させられた。さて、その後、チームに分かれて、試合開始。チーム分けはすでにされていたが、アジア系はアジア系で、欧米系は欧米系で、アフリカ系はアフリカ系で、それぞれの民族で固まってしまうようで、それが悩みの種でもあるようだ。「自由の国、他民族共存の国」というイメージがあったが、少し違和感を覚えた。さて、試合の最中にまたまた、突然の避難訓練。今回は、Lockout Drillという訓練で、校内に銃を持った不審者が侵入したという想定で、避難するというもの。一同、体育館の更衣室に避難し、静かに身を潜めていた。銃社会のアメリカならではの訓練で、貴重な体験をすることができた。その後、本校生も阿武野生とケントレイク生（アジア系の女子）とバスケットボールのゲームを楽しんでいた。

4限からランチタイムは、書道の実演とダンスパフォーマンス。書道は生徒の名前を、漢字で書くというもので、これが大人気で、行列ができるほど。完全な当て字で書いているが、彼らにとっては漢字が非常にかっこよく（cool）に思えるのか、書いてもらった生徒たちは大喜び。中には文字の上下の区別

がつかない生徒もいたが、いい記念になったようだ。

ダンスパフォーマンスは、司会進行を **Matthew** が担当しており、民族衣装のファッション・ショーに始まり、その後チェリーブロッサム・フェスティバルで披露した **AKB48** のヘビーローテーションを2回公演することになった。日程の都合で、本番を見ることはできなかったが、この日に見る機会が持てたのは幸運なことだった。

また、昼食を取る時間が取れなかったので、5限は休憩し、6限はそれぞれ好きな授業を受け、終了後はホストの迎えを待って、セントレイク高校を後にした。

4日目（3月30日）

今日で、セントウッド高校の授業も最終日。やっと時差ぼけが解消されてきたと思ったのに、もう帰国の準備を始めなければならないとは。さて、今日は恒例の校長先生主催の朝食会。生徒5人と日本語教室の **Miyeun** 先生、ホストの **Louck** 先生とともに2台の車で、学校を出発。目指すは **Golden Steer** というレストラン。普段は軽い朝食を取ることが多いようだが、この日ばかりはボリュームたっぷりのアメリカンスタイルの朝食を堪能。パンケーキ・ワッフル・オムレツなど日本とは比べものにならないほどの大きさと量で、校長先生からは無理して全部食べなくてもいいよと、言っていたものの、5人とも完食。さすが北野生。残したのは不覚にも教員だけでした。

帰り道、校長先生から、今年の1月末から大雪が降り続き1週間臨時休校になったという話を聞いた。そういえば、日本でも珍しく3月に雪が降ったが、シアトルでもこれほどの大雪になることはまれだそうで、これも地球温暖化の影響なのだろうか。

学校に戻ると、3限目で4限と分かれて2回目のプレゼン。さすがに落ち着いた、堂々とした発表で、安心して見る事ができた。

5限は日本語クラスで、お菓子パーティ。すっかりリラックスした様子と、名残惜しさの入り交じった微妙な時間。

6限は各自、最後の授業に出席。私はホストの **Louck** 先生の陶芸の授業を見学。完成した作品を提出する生徒もあり、評価の仕方も説明してもらった。実技科目ではあるものの、評価は3～4項目（配色・デザイン・傷の有無等）を5～10点法で採点しパソコンに入力し、合計点数に応じて **A,B,C** 等の評価に換算するという合理的なもの。陶芸用粘土の粉がついたパソコンを巧みに操作し、てきぱきと評価をおこなっていた。

3時30分からは、「**New Zen**」という日本料理店で、お別れ会。学校のある閑静な場所と違い、交通量も多いにぎやかなところにあり、到着すると店の入り口には **Closed** の看板が。何かの手違いかと思っていたら、実はそのお店は日本語教室の生徒のご両親が経営していて、営業時間外を貸しきりにして送別会を開いてくれたのだった。中途半端な時間から送別会をするんだなと思っていたが、こういう事情なら納得。着いた者から適当にテーブルに着き、料理が運び始められたが、**Miyeun** 先生の「いただきます。」の挨拶でそれぞれが食べ始めた。出席者が揃って、挨拶などのセレモニーがあるのかと思っていたが、これもまた、いかにもアメリカらしいところ。まさに、**First come, first served.**

料理は、「高校生が好きな食べ物を中心に作ったので、ふつう見られないような組み合わせです。」と経営者の奥様の弁。ただし、経営者ご夫婦は日本人なので、味は本物の日本料理。帰る際には、「シアトルにまた来られた時には、狭いですが1部屋くらいなら提供しますので。」との言葉をいただいた。日本人の発想にはない、アメリカ的な **Hospitality** を実感することになった。

5日目（3月31日）はLouck先生のご家族と動物園に行ったり、買い物をしたりして、最後の1日をゆっくりと過ごした。

6日目（4月1日）いよいよ帰国の日を迎えた。14時のフライトなので、余裕を見て、11時30分に集合。セルフチェックインで出国手続きをしようとしたが、受け付けてもらえず、結局全員カウンターで手続きをすることになり、完了するとすでに13時前。急ぎSecurityへと向かうが、ここでも名残は尽きぬ、涙のお別れ。搭乗口にたどり着くと13時30分。帰国便になんとか間に合い、帰国の途に着いた。

振り返れば、あっという間の1週間。しかし、この4年間に引率で日本に来られたすべての先生と前回ホストファミリーでお世話になったMia先生ともお会いし、姉妹校の教員同士の絆を実感することができ、大変充実した時間だったと思う。シアトルで生徒たちは、同世代の若者と生活（しかも英語だけの時間）を体験し、それぞれ何かを感じ、今後の人生にとって貴重な経験になったことだろう。今後の彼らの成長を確信しつつ、報告を終わりたいと思う。